



No.460

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2014 7-8 月号

【平成26年度定期総会・会員総会報告】

理事長挨拶

前理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

特別講演 設計者から見た 建設業の真実

【研究者紹介】

「第7回資生堂女性研究者サイエンスグラント」を受賞して

【交流コーナー】

松下昭博士 (E23) 神奈川大学名誉教授の業績の紹介

【学生コーナー】

ミヤ シトウさんがICCA国際会議において最優秀論文賞を受賞

和田拓己さん ACMSA2013でBest Paper Awardを受賞

研究室の旅「本谷研究室」

ミニSL出張運転

【新聞記事コーナー】

排水効果4倍の新路盤材を共同研究

「金の触媒作用」の春田氏が第67回中日文化賞に

【学内ニュース】

NHK大学ロボコン2014で名工大のロボコン工房が優勝!

第2回世界的著名研究者講演会を開催

第37回鳥人間コンテスト出場決定!

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース



大阪支部主催行事 第5回 奈良部会開催のご案内

大阪支部長 木越 正司(C44)
奈良部会長 西川 嘉一(G50)

大阪支部は、毎年滋賀、京都、奈良、和歌山の地方部会を持ち回りにて開催しております。
今年は、奈良部会が担当して、次のとおり開催いたしますので、ふるってご参加下さい。

1. 開催日時：平成26年9月27日(土) 13:00～19:00(雨天決行)
2. 集合場所：近鉄橿原神宮前駅 中央改札口 13時
3. 予定行程(徒歩4km)
橿原神宮・久米寺・橿原考古学研究所附属博物館など
博物館見学後に、懇親会会場へご案内します。(17:00ごろ)
今回、博物館サポート会員の内海 春樹氏により、各所の案内および
「古事記と日本書紀」と題した講演を行います。
4. 参加費用：5,000円(当日集めます)
5. 参加者：名古屋工業会員およびご家族、ご友人
6. 申込み締切：9月13日(土)
7. 申込み先：西川 嘉一(G50) Email: fwpg0181@mb.infoweb.ne.jp TEL/FAX: 0745-78-8732
8. 申込み記入事項：①氏名 ②勤務先(OBの方は元) ③住所(保険加入のため必要です)
④卒業学科、年次 ⑤TEL(できれば携帯電話をお願いします) ⑥Emailアドレス
9. 詳細連絡：参加者には直接連絡し、大阪支部HPにも掲載します。

名古屋工業大学OBオーケストラ演奏会のご案内

- ★日 時：2014年9月27日(土) 開場16:00 開演16:30
★場 所：愛知県芸術劇場コンサートホール
★演 目：S.ラフマニノフSym.2
W.A.モーツァルトSym.36「リンツ」
R.ワーグナー「マイスタージンガー前奏曲」
★指 揮：中村暢宏

※出演を希望する場合、チケットご希望の方は、名古屋工業大学OB会HPをご確認ください。
<http://www.hnk.sakura.ne.jp/nitoborchestra/>

表紙写真説明

「2号館から建設中の4号館を望む(旧17号館跡地)」(2014年5月中旬撮影)

撮影者 橋本 忍(ZY②)

平成26年度 定期総会・会員総会 報告

一般社団法人名古屋工業会の平成26年度定期総会、理事会ならびに会員総会が5月24日(土)、中日パレスにおいて開催された。

定期総会には、理事長、副理事長、常務理事、代議員等が出席し、二权常務理事の司会で、篠田理事長が開会挨拶の後、議長となり、議事録署名人を指名した。二权常務理事が報告事項を説明した後、25年度事業報告及び収支決算案、26年度事業計画及び収支予算案、理事の選任について審議され、各議案とも原案どおり議決され、終了した。

その後の理事会には理事・監事が出席し、篠田理事長が開会を宣言、木越副理事長が議長となり、新理事長の選任と相談役の就任について審議し、新理事長に水嶋敏夫氏を選任、相談役に篠田陽史氏の就任が議決され、終了した。

続いて開催された会員総会では、冒頭、25年度にご逝去された会員物故者69名のご冥福を祈り、出席者全員で1分間の黙祷を捧げた。

会員総会は二权常務理事が司会となり、水嶋理事長の挨拶、篠田前理事長の退任挨拶、鵜飼学長の会長挨拶の後、定期総会ならびに理事会

で諮られ承認された決議事項が報告された。

次に総会行事として、理事長から叙位叙勲等表彰者に記念品、母校退職職員に感謝状等、会員で卒業満70・60・50・40周年の代表者に記念品、退任役員へ感謝状と記念品が贈呈された。また、鵜飼学長より篠田前理事長にこれまでの功績を讃えて名工大から感謝状が授与された。

続いて、夏目欣昇氏(院S⑦)の司会で、株式会社山下設計代表取締役社長田中孝典氏(A45)から「設計者から見た 建設業の真実」と題して特別講演をいただいた。講演終了後には、地方で建設業を営む会員や建築学科の学生を指導する立場から、活発な質疑応答が行われた。

会場を移して開催された懇親パーティーでは、阿部副理事長の司会で北村副理事長の挨拶の後、水嶋理事長の乾杯の発声で始まり、名古屋工業大学OBオーケストラによる演奏のなか、杯を交わしながら和やかに歓談、旧交を温めた。最後に、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い、木越副理事長の閉会の辞で盛会裡に閉会した。

平成26年度 定期総会 次第

1. 議 事 (決議事項)

- 第1号議案 平成25年度事業報告及び収支決算案
- 第2号議案 平成26年度事業計画及び収支予算案
- 第3号議案 理事の選任

平成26年度 会員総会 次第

- 1. 理事長挨拶 一般社団法人 名古屋工業会理事長 水嶋敏夫
一般社団法人 名古屋工業会前理事長 篠田陽史
- 2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学学長 鵜飼裕之
- 3. 報告事項 定期総会ならびに理事会での決議事項の報告
- 4. 行 事
 - イ 叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈 (3名)
 - ロ 名古屋工業大学定年退職職員への感謝状等贈呈 (9名)
 - ハ 名古屋工業大学卒業満70.60.50.40周年の会員へ記念品贈呈 (304名)
 - ニ 退任役員へ感謝状等贈呈 (3名)
 - ホ 特別講演 講師：田中孝典氏 (A45) 株式会社山下設計 代表取締役社長
演題：「設計者から見た 建設業の真実」
- 5. 懇親パーティー

理事長挨拶

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 水嶋 敏夫 (M42)

先ほど総会で理事に選任され、その後開催されました理事会で理事長に就任しました水嶋敏夫でございます。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

名古屋工業会は、明治から平成まで100年近い歴史を刻んでおりますが、皆様ご承知のとおり昨年4月には、一般社団法人として新たな一歩を踏み出しました。これまでの歴史と、篠田前理事長が「耀く、ますます耀く母校を願って」推進してこられた改革の成果を引き継ぎ、全学同窓会としての役割を果たすべく取り組んで参りますので、皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

私の理事長就任初年度の課題を申し述べるにあたり、名古屋工業会の活動を2つの柱で考えてみたいと思います。我々工業会の特徴は、名工大の全学生、教職員および卒業生を有資格者とする全学組織であり、事業目的の第一に「大学の支援」を掲げた点があげられます。『名工大憲章』には大学の基本使命として“常に新たな産業と文化の揺籃として革新的な学術・技術を創造し社会の平和と幸福に貢献する”とあります。鵜飼学長の方針のもと、実践的工学エリートを養成するため、学部・大学院の6年一貫教育や、融合的分野からなる新教育課程創設などの改善に取り組もうとされています。そうした諸施策を展開する大学への支援を第1の柱として参りたいと存じます。

ところで、本年7月に開催される『鳥人間コンテスト』に、名工大の人力飛行機研究会が初出場すると聞きましたが、面白い人達がいるものだと思えました。どんな事にもチャレンジできる意欲旺盛な人材がドンドン輩出される魅力的な大学を目指して、我々工業会が積極的に支援して参りたいと存じます。

我々工業会の活動の第2の柱は、会員相互の親睦と考えます。OB相互の繋がり、単科会



や卒業年次別のクラス会が中心だとは思いますが、会誌「ごきそ」の発行やホームページ更新により、当会会員への情報提供を充実してきました。今後もより有益な情報発信をねらった電子媒体の活用等の改善に努めて参ります。一方、全国に1万3千人の会員を有する当会ですが、全体で7万人にならんとする卒業生のうち会員は約2割に過ぎず、卒業生の組織率向上は会員相互の親睦活動の前提となります。一昨年より開始しております新入学生の会員入会率は90%以上でありますので、今後は既に卒業されている方々の会員入会を促す事が必要だと思います。すでに会員となられている皆様をお願いするのも恐縮ですが、皆様の身近にいらっしゃる先輩・同僚・後輩の同窓生に対し機会をとらえた勧誘をお願い致します。

以上のように、我々工業会の活動は大学支援と会員相互親睦を2本の柱として進めて参りますが、最後に、母校が行う名工大基金へのご協力についてお願い申し上げます。我々の母校は今や国立大学法人であり、グローバルに活躍できる優秀な学生を輩出し続けるには、卒業生の皆さんの支援が必要です。あらゆる機会をとらえ、名工大基金への寄付のご協力をお願い致します。

さて、2020年の東京オリンピックの開催も決定しており、我が国の成長に大きな期待が高まっています。明るい未来を創る人づくりに、我々工業会の活動が貢献できますよう、そのためにも皆様の積極的なご提言をお願いしまして、理事長就任の挨拶と致します。ありがとうございました。

前理事長挨拶

一般社団法人 名古屋工業会

相談役(前理事長) 篠田 陽史(M33)

会員総会に先立ち開催されました理事会に於いて、私の理事長退任をご承認頂きました。

平成20年5月、牛込前理事長より理事長を受け継いでから6年になります。この間、会員の皆様の温かく強いご支援、ご協力を頂き、職責を果たすことができました。本当にこの6年間ありがとうございました。

また、素晴らしい新進気鋭の水嶋理事長が選ばれましたこと、当会にとって心強い限りです。

私にとって、法人創立以来47年に亘る社団法人名古屋工業会の長い歴史の最後の理事長として、そして新法人法による一般社団法人名古屋工業会の初代理事長という記念すべき機会に出会うことができましたが、それ以上に母校の支援を事業目的の第一とした新法人名古屋工業会が昨年5月に発足し、以来1年、大きな成果を挙げつつあること、改めて、会員の皆様、大学、そして関係各位の多大なご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

更に申し上げたいことが有ります。長年、名古屋工業会事務局長を務め、また新法人立ち上げの実務を担当してきた加地敏弘氏が、私の理事長退任と時を同じくして、退職いたします。加地氏の功績の重さは計り知れません。本当にありがとうございました。



常務理事二杵幸夫氏も、私を6年間支え続け、また新法人立ち上げの立役者であり、本当に苦労を分かち合いました。二杵氏には新執行部にも常務理事として継続して加わって頂き、名古屋工業会の事業展開に切れ目ができないよう、お願いいたしました。誠にご苦勞ですが宜しくお願いします。

私が今日を迎えることができたことは、両氏の献身的な努力の賜物であるとともに、事務局職員の皆様の支えがあってこそと感謝するのみです。

大学は本年4月、鵜飼学長が就任され、次の発展へと進んで行かれます。名古屋工業会も水嶋新体制で更なる事業展開となります。私達工業会会員全ての願いである「耀く、ますます耀く母校を願って」は間違いなく達成されます。

最後になりましたが、改めて会員の皆様のご支援、ご協力に、御礼申し上げますとともに、会員の皆様方の今後ますますのご健勝を祈念し、退任のご挨拶といたします。



叙勲受章者へ記念品を贈呈後に握手



退任役員へ感謝状と記念品を贈呈

会 長 挨 拶

国立大学法人 名古屋工業大学 学長
一般社団法人 名古屋工業会 会長
鶴飼 裕之 (F52)

ご紹介いただきました名古屋工業大学長の鶴飼でございます。

本日は、名古屋工業会会員総会の開催、誠にありがとうございます。

名古屋工業会の会員の皆様には、日頃より名古屋工業大学のために多大なるご支援を頂戴し深く感謝申し上げます。

本日勇退されます篠田様には、6年間の長きに亘り名古屋工業会理事長として会の発展、一般社団法人への移行などに尽力されてこられました。特に、本学との連携強化を推進され、本学のために大変ご支援を頂戴致しました。ここに、改めて厚くお礼申し上げます。本当にご苦労様でございました。

また、本日から新たに理事長にご就任されます水嶋様には、これまでも、先輩として、また企業トップとして本学のために色々ご尽力を賜ってまいりましたが、今後は、名古屋工業会の理事長として、より一層本学の教育研究に対してご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私こと、昭和52年に計測工学科を卒業し、学生時代を含めると40年以上を御器所が丘で過ごしてまいりました。本日より卒業生の皆様を前に、改めて学長としてご挨拶させて頂くことを大変光栄に存じております。ご承知のように名古屋工業大学は、明治38年の名古屋高等工業学校、昭和18年の愛知県立高等工業学校を源流として、今年で109年を迎えます。長い歴史と伝統を受け継いでいく重責に身の引き締まる思いでございます。学長として、さらに名工大を発展させるために全力を尽くしてまいります。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

さて、本学は法人化されて今年で11年目を迎えますが、国立大学法人を取り巻く状況には大変厳しいものがあります。そのような中で学長に就任するにあたって、将来ビジョンと大学改革のための行動目標を示させていただきます。



た。この場をお借りして簡単にご紹介させていただきます。

まず、一つ目は、教育に関するビジョンです。

これまで本学は、7万人余りの卒業生を輩出してまいりましたが、おかげさまで卒業生は大変高い評価を頂いており、それがわが国の産業を支えてきたことを誇りに思っております。この伝統を引き継ぎながらもそれに甘んじることなく、社会がグローバル化する中で、本学も新たなグローバルステージに踏み出してまいります。今や、産業のグローバル化に伴い、日本だけでなく、世界で活躍できる技術者が要望されています。また、専門性に長けた人材のみならず、技術を価値につなげイノベーションを創出するような幅広い視野をもち俯瞰的な見方ができる人材が求められています。さらには、ベンチャーを立ち上げる気概をもった人材も求められています。このように、社会・産業界からは多様な人材養成の要望があり、それに応えるため、これまでの工学体系を見直して学部と大学院の一体的な改革を行い、新たな名工大発の工学教育モデルを作っていくことを検討しております。科学技術で未来社会を創るという高い志を育む教育をめざす。これが一つ目の教育ビジョンです。

二つ目は研究に関するビジョンです。

おかげさまで、先生方の高い研究レベルと豊富な成果により、本学は社会から「テクノロジーの宝庫」と評されるに至っております。それをさらに盤石なものとするとともに、世界トップクラスの研究レベルにあるとされる応用化学、材料科学などを一層強化して本学の研究ブランド力のアップに努めてまいります。そのために、

学内にユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）というポジションを配置し、学内の研究の中から先端的、独創的研究を発掘し、国際共同研究や大型プロジェクトなどにつなげて組織的に支援していく仕組みを作ります。

また、中京地区は、ものづくり産業の集積地であり、その好環境に名工大は支えられ、育てられてきました。その結果、本学は産学連携共同研究では多くの実績を築き、社会からも高い評価を頂いております。今後も、産学官連携機能を強化し、併せて地域の中小企業に優れた技術を提供してグローバルカンパニーへの成長に貢献してまいりたいと思います。世界における工学のイノベーションハブを構築する。これが名工大の研究ビジョンです。

そして、三番目は、法人運営に関するビジョンです。

国立大学は、法人化の平成16年から運営費交付金が毎年1%ずつ縮減する厳しい財政の中で運営する状況が続いております。幸い本学は産学官連携研究によって外部資金の獲得では高い

実績を得ております。これをさらに強固なものとするため、工科系大学としての機動力・柔軟性を活かした教育研究による収益を充実させて経営基盤を確立し、効率的に運営してまいります。社会変化に対応しながら常に前進する大学をめざす。これが三番目のビジョンであります。

第三期中期目標期間までの2年間の改革加速期間においては、これら三つのビジョンをめざし、不断に教育改革、研究改革、財政改革を実行してまいります。

本学が発展していくためには、卒業生の皆様からのご支援が必要です。ご寄附や研究支援という形だけでなく、皆様の持つおられる知見・経験を教育に生かしていく機会を設けるなど、卒業生の活力を本学の教育研究に活用させて頂きたいと期待しております。

昔同様、今も学生は元気です。この元気な学生をさらに元気にし、高い志をもって育っていくような大学にしたいと思います。

皆様のご支援、ご協力をお願いして、私のご挨拶とさせていただきます。



会員総会風景



懇親パーティ（水嶋理事長が乾杯の発声）

平成26年5月24日

会員各位

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 水嶋 敏夫

平成26年度定期総会及び決議ご通知

平成26年5月24日(土)開催の一般社団法人名古屋工業会定期総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。

平成26年度 役員名簿

理事(6) ○ 水嶋敏夫 M42 春日敏宏 Y56
阿部完二 D41 木越正司 C44
二杵幸夫 K39 北村 正 Es48

監事(2) 清水益文 F44 安藤正晴 B43

相談役(4) 藤原俊朗 K31 市川日出男 D32
牛込 進 Y33 ○ 篠田陽史 M33

参 与(11) 日比貞雄 W35 大橋照男 K36
宇佐美貞夫 F40 北村健治 B40
小田征一郎 E36 河辺 彰 K40
加藤作次 C40 張田吉昭 M43
伊藤要蔵 B42 川村信之 E53
楠田修三 A50

顧問(7) 河本毅一 C32 戸荻吉孝 F39
飯田秀郎 W33 石川金治 C33
横田章宏 D33 道家清正 Y30
玉田欽也 W32

参 事(20)

	学 内	学 外
C	藤田素弘 C60	安藤裕康 C48
A	麓 和善 A54	水谷友彦 A42
M	中村 隆 M50	大西 一 M49
E	内匠 逸 Es57	安藤幹人 E57
W	山本勝宏 ZW⑥	泉地正章 W44
D	森 秀樹 D52	伊藤 豪 D41
Y	本多沢雄 ZY⑥	牛田邦裕 Y51
K	小坂井孝生 K49	江崎正啓 K47
F	種村眞幸 F56	大鹿秀正 F47
B	仁科 健 B50	植村康一 B49

支部長(22)

北海道	三田村好矩 F41	大 阪	木越正司 C44
東 北	斎藤文伸 A51	兵 庫	楠田修三 A50
東 京	阿部完二 D41	岡 山	宮崎勝秀 A45
甲信越	若林俊樹 M56	広 島	菱川躬行 E34
静 岡	山之上誠 C49	山 口	岸田潤三 C58
○三 河	岩月幹雄 K56	山 陰	糸賀輝穂 C51
名古屋	春日敏宏 Y56	香 川	細谷芳照 C53
○尾 張	音無通男 W41	徳 島	後藤田啓造 M38
岐 阜	山中茂樹 A34	愛 媛	千羽茂雄 C43
北 陸	山岸憲一郎 K33	高 知	山崎健司 A54
三 重	松林万行 D48	九 州	喜多村治雄 M40

代議員(84)

北海道(1)	秋山秀雄 Es43		
東 北(1)	栗村滋雄 C29		
東 京(7)	坂井利充 C42	平手孝士 Es42	
	日沖 昭 Y40	松居和治 D51	
	北野良幸 M46	石田交広 A63	
	須賀久明 K43		
甲信越(2)	若林俊樹 M56	樋口 順 C48	
静 岡(2)	藤井義麿郎 Es49	榊原 学 F48	
三 河(11)	中島和彦 Y58	吉木 満 W56	
	宇野富士夫 D③	佐藤章雄 F52	
	沼澤成男 M59	高橋祐二 ZY⑦	
	岡本幹浩 M60	中島茂伸 B53	
	長谷部勲 K56	二井郁夫 K58	
	岩月幹雄 K56		
名古屋(23)	阪野春彦 C56	兼岩 孝 C54	
	藤田素弘 C60	内藤克己 A43	
	水野直樹 M53	武内博明 Mb①	
	富田庸公 Mb①	杉山耕一 Ma④	
	菊間信良 Es57	森田良文 E62	
	中村剛士 EJ⑤	廣瀬光利 E50	
	長縄 涉 Es④	三宅正人 E60	
	森川民雄 W45	伊藤 豪 D41	
	緑 静男 D42	大橋聖一 D45	
	多賀 茂 Y62	小山敏幸 K61	
	守田賢一 F47	鷺見克典 B63	
	犬塚信博 J62		
尾 張(6)	中村啓之 A41	服部重夫 Y43	
	立石吉行 M44	杉本 握 C35	
	隠岐敏夫 D40	音無通男 W41	
岐 阜(7)	各務剛児 C53	亀山義比古 A43	
	堤 善治 M45	関尾光正 D41	
	大久保陽一 Es44	笹島 康 Y39	
	兼松克司 K42		
北 陸(2)	森 悦次 K46	馬場清和 M44	
三 重(4)	小林 明 G49	北川貴志 C50	
	久世憲志 C52	太田啓雅 E62	
大 阪(5)	藤原康宏 E36	三木敏裕 E48	
	岡崎格郎 A46	玉水新吾 A51	
	田中耕嗣 G52		
兵 庫(2)	楠田修三 A50	井田 登 FM②	
岡 山(2)	虫明正博 K59	中村浩巳 A54	
広 島(1)	菱川躬行 E34		
山 口(1)	岸田潤三 C58		
山 陰(1)	森下 博 C56		
香 川(1)	浅野啓三 F60		
徳 島(1)	福井一博 A46		
愛 媛(1)	浜田裕介 D④		
高 知(1)	山内 健 C53		
九 州(2)	喜多村治雄 M40	安達高春 A46	

※○は新任

平成 25 年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

平成 25 年 4 月 1 日に一般社団法人へ移行し、新定款に基づく公益目的事業である大学支援を的確に実施すると共に会員交流等同窓会としての諸事業を実施した。更に新入生に対する諸納金制度の導入により財政基盤の充実を図った。

2. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援

国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため、学生・教職員の海外留学・派遣に対する学長裁量経費の充実に資する支援を行った。

- ① 学生・教職員の海外研鑽支援－学生 31 名、教員 5 名
- ② 外国人留学生の支援－留学生 3 名、教員 2 名

(2) 教育研究等支援

- ① 第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ② 10 名の教員に研究助成金を交付し、母校における研究の振興を図った。
- ③ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ④ 理事長が名古屋工業大学諮問会議及び基金運営委員会の委員として、また常務理事が基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ⑤ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行い、大幅な増加となった。
- ⑥ 名古屋工業大学の定年退職教職 5 名に、会員総会で感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援

- ① 国際化推進のための海外留学等の支援を行った。（再掲）
- ② 名古屋工業会賞の贈呈
平成 26 年 3 月 23 日の学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 19 名に対し、理事長より工業会賞として表彰状並びに記念品を贈呈した。
- ③ 前期入試における各学科の最優秀者 7 名に対し、平成 25 年 4 月 6 日の入学式において、工業会特別奨学金を授与した。
- ④ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ⑤ 課外活動奨励金を 35 団体に、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑥ 平成 25 年 3 月卒業の終身会員に祝意を表し、記念品を贈った。
- ⑦ 学生の就職支援の一環として、OB の企業トップによるセミナーおよび OB 講演会を開催した。
- ⑧ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。
- ⑨ 新入生の保護者に工業会の学生支援等の説明を行うと共に、在学生の保護者に大学情報等の提供のため、会誌を送付した。

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 財政基盤の強化のための会員増強活動

① OB 未入会者への勧誘

- 1) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。

- 3) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 4) OB 入会率向上のため、卒業後経過年数による終身会費の割引を改訂し、26年度より実施する。
- 5) 本年度新規入会者 () は前年度実績

終身会員 11(29)名、 年度会員 18 (32)名、 合計 29(61)名

②新入学生への勧誘

本年度新規入会者

終身会員 1,001(1,028)名、 学生会員 0(0)名、 合計 1,001 (1,028)名

③在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。
- 3) 本年度新規入会者

終身会員 0(9)名、 学生会員 1(17)名、 合計 1(26)名

④平成 25 年度末、対象者 59,076(57,744)名、会員 12,608(12,428)、OB 会員入会率； 21.3(21.5)%

会員の内訳 終身会員 9,348(9,119)名、年度会員 3,260(3,309)名

(2)活性化活動

①会員交流および広報活動

- 1) 会誌「ごきそ」を隔月刊行し会員に送付した。更に、3・4月号は新入生に、5・6月号は在校生の保護者に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
- 2) ホームページをリニューアルし、内容の充実と即時性を高めた。更にホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図った。
- 3) 工業会が保有する卒業生名簿について、卒業生連携室の協力を得て整備のための検討を行った。

②支部活動

- 1) 各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。
- 2) 支部長会議を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。

③単科会との連携

- 1) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④講演会の開催

- 1) 会員総会後に特別学術講演会を開催した。

講師： 石川金治氏 特定非営利法人ア!安全・快適街づくり理事長

演題：『「生き甲斐」って、なに？「新しい公共」って、なに？』

⑤記念品の贈呈

- 1) 平成 24 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、会員総会で記念品を贈呈した。

近藤靖彦 (D40)	瑞宝中綬章	不破幸雄 (E30)	瑞宝小綬章
米沢 敦 (W20)	瑞宝小綬章		

- 2) 卒業満 70, 60, 50, 40 周年に該当する会員に、会員総会にて記念品を贈呈した。

70 年－昭和 18 年卒 44 名、60 年－昭和 28 年卒 57 名 50 年－昭和 38 年卒 99 名
40 年－昭和 48 年卒 104 名